

## 看護部 研究業績 (2019年)

### 著書

- 1
  - ① 岡山 幸子
  - ② がん看護 P352～354
  - ③ Vol24.No.4
  - ④
  - ⑤ 東京
  - ⑥ 2019.05.01
  - ⑦ 「やっぱり現場がスキ！セルフケアからキャリアアップまで」 がん領域で自分とはたらく仲間をケアする～スタッフケア～というタイトルで、がん看護ビギナーへのメッセージを伝えた
  
- 2
  - ① 岡山 幸子
  - ② 臨床栄養P724～730 第134巻第6号2019.05.25
  - ③ 第134巻第6号
  - ④
  - ⑤ 東京
  - ⑥ 2019.05.25
  - ⑦ 緩和ケアにまつわる現状と課題 「ホスピス緩和ケア病棟とは」について、緩和ケア病棟の世界・日本の歴史から病棟の役割まで述べている
  
- 3
  - ① 中田 徹朗
  - ② Emer-Log(チームで読める救急医療の専門誌)
  - ③ 32(2)
  - ④ メディカ出版
  - ⑤
  - ⑥ 2019.4
  - ⑦ 特定行為研修終了してからの病院での活動

- 4
- ① 中田 徹朗
  - ② みんなの呼吸器 (Respica)
  - ③ 第17巻5号
  - ④ メディカ出版
  - ⑤
  - ⑥ 2019. 5号
  - ⑦ 頭蓋内圧亢進から呼吸状態が増悪している救急患者

#### 症例報告

- 1
- ① Sachiko Okayama、Yoshinobu Matsuda、Yoshito Yoshikawa
  - ② A Comparative Study of Opioid Switching to Methadone for Cancer Pain Control in Successful and Unsuccessful Cases.
  - ③ Journal of Palliative Medicine
  - ④ Jul;22(7)
  - ⑤ 2019
  - ⑥ 844-847.
  - ⑦ To evaluate the differences in the clinical aspects in switching to methadone between successful (SC) and unsuccessful (UC) cases.

#### 学会発表(特別・教育講演、シンポジウムを含む)

- 1
- ① 黒木亜希子・高石明子・鈴木麻希・若松雄太・石津智司・山崎純也
  - ② 灌注排便法から自然排便法への変更に難渋しているストーマ保有者に対する多職種での支援
  - ③ 口演
  - ④ 第36回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会学術集会
  - ⑤ 大阪府大阪市
  - ⑥ 2019/2/23

⑦ 灌注排便法から自然排便法に変更することは、排便管理の方法を大きく変更することであって、薬剤の調整や栄養管理等、様々な職種での介入が必要である

2 ① 西澤 敦子

② Clostridioides difficile 毒素遺伝子検出検査導入による費用対効果の検討

③ 口演

④ 第34回日本環境感染学会

⑤ 神戸

⑥ 平成31年2月22日(金)

⑦ 2018年6月にNucleic Acid Amplification Test (NAAT) によるトキシンB遺伝子検査を導入した。NAAT導入による感染対策費用の費用対効果を検討した。NAATの導入は感染対策費用の削減につながった。

3 ① 大原 里実、岡山 幸子、仲谷 みどり、吉川 善人、仲村 真理、春日 佳織、橋谷 進

② 「包括的アセスメントシートを用いたチームアプローチ」

③ 口演発表

④ 第13回日本医療マネジメント学会兵庫支部学術集会

⑤ 兵庫

⑥ 2019.02.17

⑦ 緩和ケア病棟において、複雑な症状を有するがん患者に対して、包括的アセスメントシートを用いてアセスメントし、治療・ケアの方針をチームで考えた。

4 ① 岡山 幸子、土井 美奈子、吉川 善人

② 「難治性がん疼痛を有する外来患者でのメサドンへのオピオイドスイッチングにおける緩和ケア認定看護師の役割」

③ ポスター発表

④ 第24回日本緩和医療学会学術集会

⑤ 横浜

⑥ 2019.06.21～22

⑦ 難治性がん疼痛を有する患者にメサドンは有効である。外来通院患者にメサドンへオピオイドスイッチングを行なうために緩和ケア認定看護師の役割について述べた

- 5
  - ① 岡山 幸子、他施設8名
  - ② 「近隣のホスピス緩和ケア病棟5施設の発表を共同で行い見えたもの ～西宮緩和医療研究会での取り組みについて～」
  - ③ ポスター発表
  - ④ 日本緩和医療学会第2回関西支部学術大会
  - ⑤ 和歌山
  - ⑥ 2019.10.20
  - ⑦ 近隣の5施設の緩和ケア病棟師長が集まり、自施設の特徴などについて発表を行ない、聴講者とディスカッションを行なった取り組みを発表した。学会で発表することにより、同じような悩みをもつ地域でも開催したいなどの意見を頂いた。
  
- 6
  - ① 発表者:岡田有香 共同発表者:福田奈美子 黒岩幸子 岩本雅美 竹中義昭
  - ② 演題名:手指衛生遵守に向けた取り組み ～直接観察法を実施して～
  - ③ ポスター発表
  - ④ 学会名:第64回 日本透析医学会学術集会・総会
  - ⑤ 開催場所:横浜
  - ⑥ 2019年6月28日～6月30日
  - ⑦ 直接観察法は、様々な場面で実施する事により現状を把握することが出来る
  
- 7
  - ① 中田徹朗
  - ② 台風21号による停電が発生したA病院からの患者搬入における当院の実際と課題
  - ③ ポスター
  - ④ 第24回日本災害医学会総会・学術集会
  - ⑤ 鳥取県米子市
  - ⑥ 2019. 3. 19
  - ⑦ 台風21号により停電が発生したA病院からの患者搬入をドクターカーで受け入れて入院へ繋げた。
  
- 8
  - ① 中田徹朗
  - ② 4病院で構築した「学べる環境の場」の評価と課題
  - ③ ポスター

- ④ 第21回日本救急看護学会学術集会
  - ⑤ 幕張メッセ
  - ⑥ 2019. 10. 5
  - ⑦ 他施設と合同で開催しているセミナー研修の構築にあたり受講者の満足度と研修の評価
- 9
- ① 日吉理恵
  - ② 緩和ケア病棟看護師が認識するスピリチュアルケア
  - ③ ポスター
  - ④ 第24回日本緩和医療学会学術集会
  - ⑤ パシフィコ横浜
  - ⑥ 2019年6月21日～22日
  - ⑦ 対話を通して、自己の考えを言語化する事は専門的緩和ケアを担う看護師の育成に有用であるが、実践においてチームで共有していくことが課題である。
- 10
- ① 淋 美智代、村上真知子、越智美千留
  - ② 退院後の療養行動に自信が持てず、自己効力感の低下した患者に対する支援
  - ③ ポスター発表
  - ④ 第62回日本糖尿病学会年次学術集会
  - ⑤ 仙台国際センター
  - ⑥ 2019/5/25
  - ⑦ 患者の生活習慣改善に対する受け止めの状態をアセスメントし、看護師が意識的な関わりをした結果、行動や言動が変化し自己効力感が高められたと考える事例を経験した。
- 11
- ① 金田利香子 浦田恵美 相原由香 岡風呂文 長畑安規子 岡田奈美 福岡 奈織
  - ② 小児看護における緊急シミュレーションの試み
  - ③ 口演・ポスターセッション
  - ④ 看護協会阪神北支部看護実践報告会
  - ⑤ 三田まちづくり協働センター
  - ⑥ 2019、2、23

⑦ 小児病棟における急変時シュミレーションの試み

12 ① 岩永珠季

② 救急病棟における非がん疾患患者の意思を尊重した多職種連携による緩和ケアの有用性

③ ポスター発表

④ 第24回日本緩和医療学会学術集会

⑤ 横浜

⑥ 2019.06.21～22

⑦ 【要旨】救急病棟において、非がん疾患患者の意思を尊重し、多職種連携が連携して緩和ケアを行った症例について報告した。

その他(新聞・TV)

1 ① 岡山 幸子(座談会)

② ひとつおりのことをやっても苦痛が取れない時のもうひと工夫の緩和ケア

③ 週刊医学界新聞 座談会1～3面

④ 2019.02.25 第3311号

2 ① 福岡奈織

② 病棟紹介

③ すみれHeartねっと

④ 2019.12